

【vol.73】 ハーモニックマイナーとメロディックマイナーを指板上で広く把握するトレーニング ～その1～

どうも、大沼です。

前回までで、メロディックマイナー系の重要スケール3種を全て覚えましたね。

これでマイナー系の基本スケールは、

- ・ナチュラルマイナー
- ・ハーモニックマイナー
- ・メロディックマイナー

と、大方、全てに対応できる基礎が身についた事になります。

で、早速、メロディックマイナー系スケールの実戦に行こうと思ったのですが、その前に、ハーモニックとメロディックの両マイナースケールを、指板全体で弾けるようになる為のトレーニングをやっておきたいと思います。

何だかんだ言って、ナチュラルマイナー(=チャーチモード)系のスケールよりは、手に馴染みの無いスケールだと思うので、この機会に、構成音の配置やポジションの感覚を、もう一度掴んでおきましょう。

構想の段階では、今回一本で両スケールを纏めるつもりだったのですが、テキストを作ってみたら結構な量になったので、2回に分割しました。

なので今回は、ハーモニックマイナーのトレーニングになります。

後、譜例が結構長いので、可能なら、テキストを印刷してもらえると練習が非常にやりやすくなるでしょう。

それでは、始めていきましょうか。

過去のテキストで学んだスケールポジションは、5、6弦にトニックを見ながら、一定の範囲で終止していましたが、今回はそれらを繋ぎ合わせて、一気に弾ききるものです。

元々このトレーニングは、僕自身の基礎練習の一環として作ったもので、チャーチモード(=メジャー&ナチュラルマイナー)、ハーモニック、メロディックの3種のスケールを、指板上のどこのポジションでも切り替えられるように、と言う考えが元になっています。

よって、ローポジションから最終フレット近辺まで、延々と続くフレーズになります。

使うスケールポジションは、ハーモニックマイナーが、

- ・ Iハーモニックマイナー(5、6弦トニックそれぞれのポジション)
- ・ Vハーモニックマイナー P5th ビロウ(Hmp5↓)(5、6弦トニックそれぞれのポジション)
- ・ VIIオルタード b b7(実質、ハーモニックマイナーの半音下から始めるスケール)

メロディックマイナーが、

- ・ Iメロディックマイナー(5、6弦トニックそれぞれのポジション)
- ・ IVリディアン b7th(5、6弦トニックそれぞれのポジション)
- ・ VIIオルタード・ドミナント(メロディックマイナーの半音下から始めるスケール)

と、なっており、基本的には、過去に覚えたそれぞれのポジションをつなぎ合わせて行く、
と言う作業です。

メロディックマイナーについては、このテキストではやっていませんが、上記に加えて、
比較的弾きやすいポジションとして、Vミクソリディアン b6th、VIエオリアン b5th(=VI
ロクリアン b2nd)の、それぞれのポジションを見ても、全体が把握しやすくなるでし
ょう。

(※両スケールの構成音はメロディックマイナーと同じ。詳細は後の解説で。)

後、これまではkey=Amを想定して、A音を1度に見た場合のトニックで各スケールを
弾いていましたが、それだと5弦開放A音をトニックに見たポジションの前後が少し弾き
にくくなるので、key=Bmに設定して、B音を1度に見て弾いていきます。

なので、基本スケールがBハーモニック、Bメロディックの両マイナースケールになりま
すね。

では、前置きが長くなりましたが、細かい解説の前に、まずは譜例を見ていきましょう。

譜例、Bハーモニックマイナー、指板横断フレーズ

S-Gt

mf

TAB

2 3 1 2 4 5 2 4 5 3 4 2 3 5 2 3 6 3 2 5 3 2 4 3 5 4 2 5 4 2-1 3 2 3 1 2 4 5 2 4 5 3 4 6 7 5 7 8

TAB

6 7 6 8 7 9 7 6 9 8 10 9 7 10 9 7 6 7 9 10 8 9 6 7 9 7 8 6 7 9 10 9 7 6 8 7 9 7 6 9 8 10 9 7 10

TAB

9 7 6 7 9 10 7 9 10 8 9 11 12 9 11 12 11 12 9 10 12 10 9 11 12 12 11 9 12 11 9 8 10 9 10 8 9 11 12 9 11 12 11 12 14 15 12 14

TAB

15 14 12 15 14 12 11 12 11 14 12 11 14 13 14 11 12 14 11 12 14 15 18 15 14 17 15 14 16 15 17 16 14 17 16 14 17 16 14 13 14 16 15 14 15 14 13 14 16 15 14 15

mf

TAB

17 14 16 17 15 16 18 19 17 19 20 18 19 21 22 21 19 18 20 19 17 19 18 16 15 17 16 19 17 16 19 18 19 16 17 19 15 16 18 19 17 19 20 18 19 21 19 18 20 19 21 19 18 21 20 21 18 19 20 18 19

さて、指板全体を横断するフレーズなので、見ての通り、長いものになりますね。

基本的には、左手のストレッチ(この譜例では指を5フレット以上広げる場所)を(ほぼ)使わなくて済む様にしてあります。

全てのポジション移動は、人差し指を基点に行う事を想定しています。

今回はハーモニックマイナーのトレーニングなので、それを元にしたモードスケールとダイアトニックコードは以下の様になっています。今回はkey=Bmなので、それぞれB音から始まりますね。

※Bハーモニックマイナースケールのダイアトニックコードとモードスケール

BmM7	Bハーモニックマイナー
C#m7 b5	C#ロクリアン 13th
DaugM7	Dアイオニアン#5
Em7	Eドリアン#4
F#7(b9)	F#ハーモニックマイナー P5th ビロウ (or フリジアン#3)
GM7	Gリディアン#9
A#dim7	A#オルタード b b7

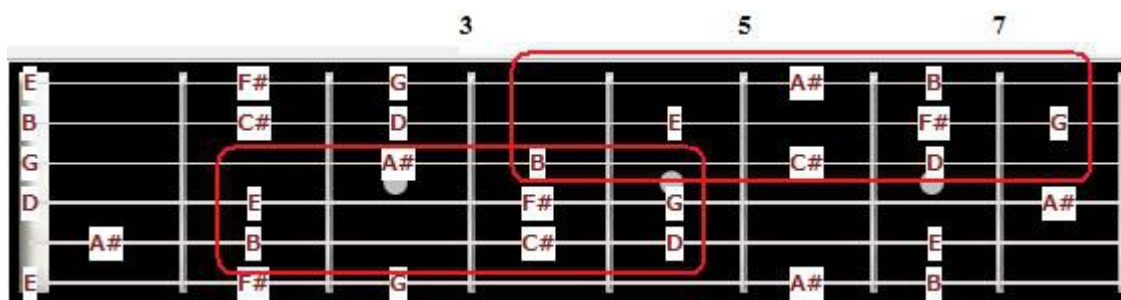
主に赤字で示したスケールのポジションを繋ぎ合わせていきます。

もちろん、わかりやすいと感じるものがあれば、他のスケールを想定しても構いません。(※どのスケールも、構成音は大本の1度のスケールと全て同じで、それぞれの構成も名前の通りになっています)

では、これで前段階としての情報は出揃ったので、譜例と各スケールポジションを照らし合わせていきましょう。

まず最初は、5弦2フレットB音を中心に見て、その周辺のポジションからフレーズが始まっています。

図、Bハーモニックマイナー(5弦トニック)

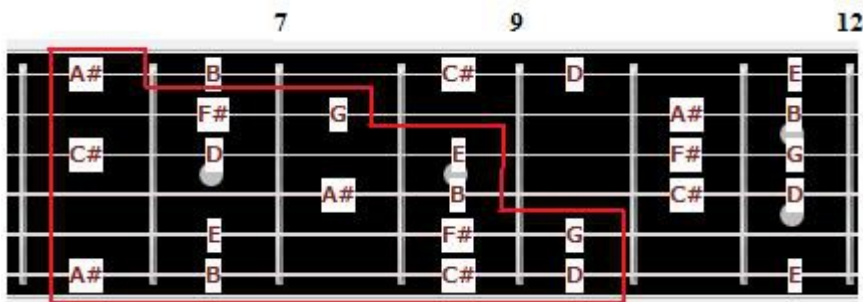


そのポジションを1弦7フレットB音から下がって行って、6弦7フレットB音まで行き、その半音下の6フレットA#音から再度上がって、次は1弦10フレットD音まで弾きます。

そして、そこからまた6弦のA#音まで下がります。

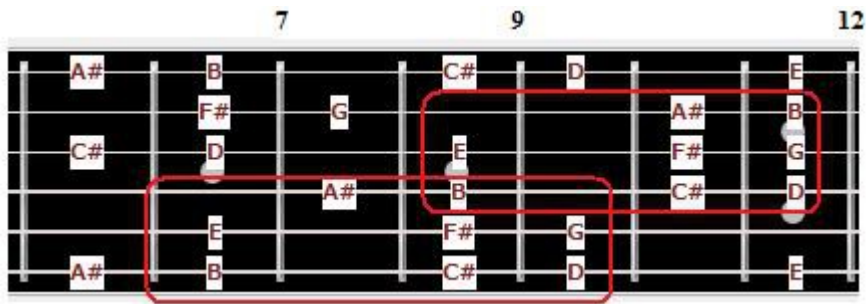
この時、A#から始まるスケールは、最初の方で少しお話した、オルタード♭♭7thスケールのポジションになりますが、実質、Bハーモニックマイナーをトニックの半音下から弾いただけなので、どちらの解釈でも構いません。

図、A#オルタード♭♭7thスケール

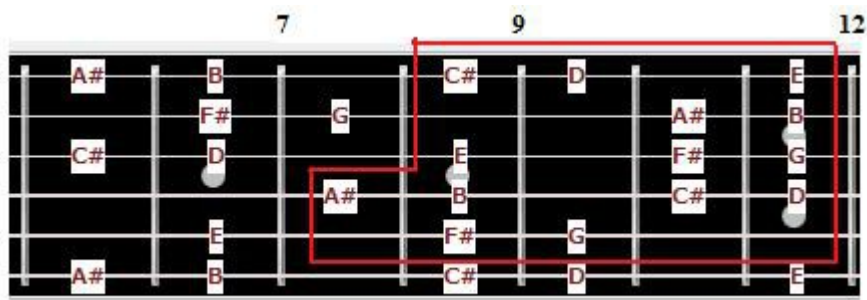


ここまでがスタートから6小節目(とちょっと)までですね。

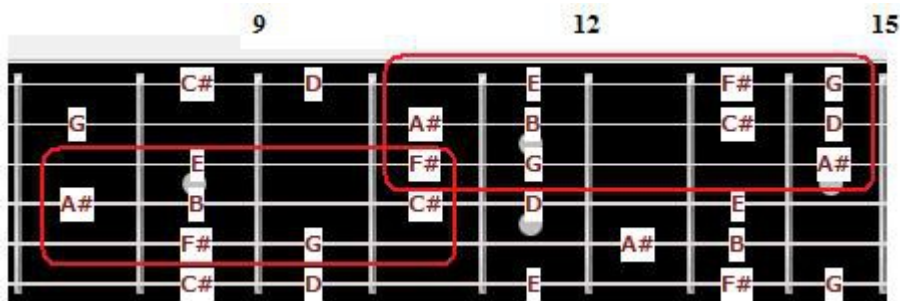
続いて、6弦7フレットB音から、6弦にトニックを見たハーモニックマイナーのポジションをまた上がるのですが、今度は4弦9フレットB音のオクターブの位置で右にずれていきます。



この後は、実質、ポジションが重なっているのので、Bハーモニックマイナーをそのまま上がっている、と解釈しても良いのですが、どちらかと言えば、5弦ルートF#Hmp5↓スケールのポジションを、1弦12フレットまで真っ直ぐ下に弾いて行く、と言う意識に。

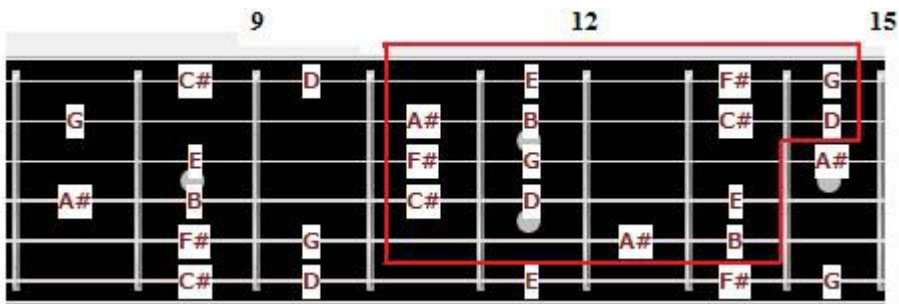


で、1弦12フレットまで行ったら再度下がっていき、このポジションのトニックである5弦9フレットF#音まで戻ります。



次はまたこのポジションを上がりますが、今度は過去にテキストでやった、右にずれて行く弾き方で弾いていきます。

ここを1弦15フレットG音まで上がったなら、5弦14フレットB音をトニックに見た、Bハーモニックマイナーか、その半音下のA#音をトニックに見た、A#オルタードb b7thのポジションとして下がって行きます。



このポジションはテキストではやっていませんが、比較的、弾きやすいポジションなので、覚えておくと便利です。

ここも、5弦13フレットA#音まで下がったら、再度上がっていきます。

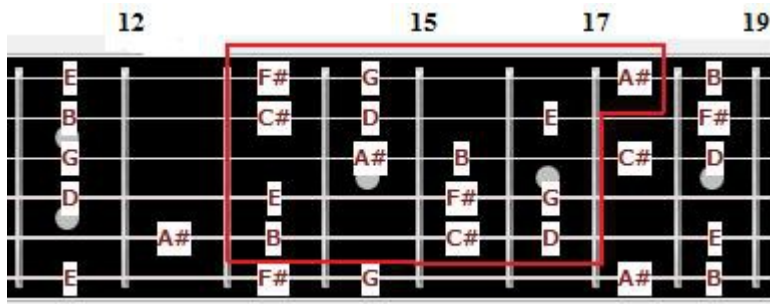
ここを1弦12フレットまで上がったたら、人差し指を14フレットにスッと動かして、ポジションを切り替えます。

これで、7～11小節目の途中までになりますね。

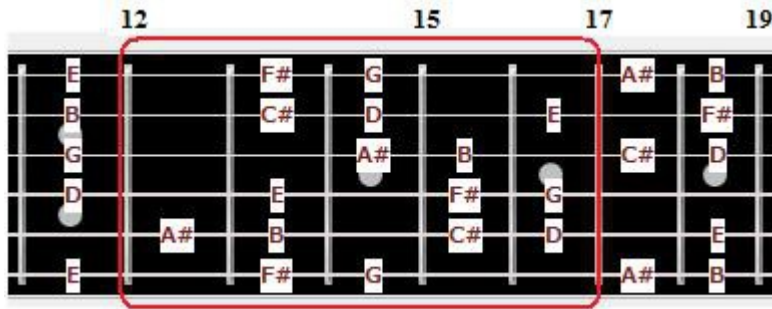
ここから先は、一番最初のローポジションで弾いていたものを、オクターブ上がっただけなので、大本のスケールポジションは同じ形を見て、譜例の通りに切り替えていきます。

それぞれ見ていくスケールは、以下の様になっています。

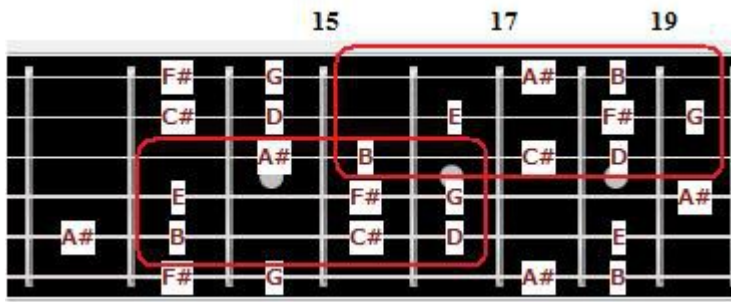
※Bハーモニックマイナー



※F#Hmp5↓



※Bハーモニックマイナー

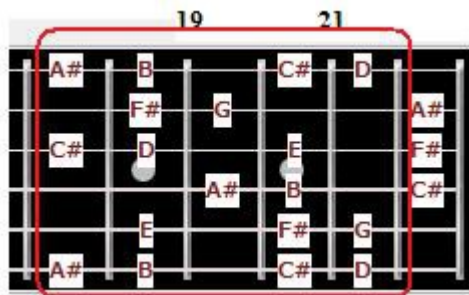


これらのポジションを進んでいくと、大体、13小節目が終わるくらいです。

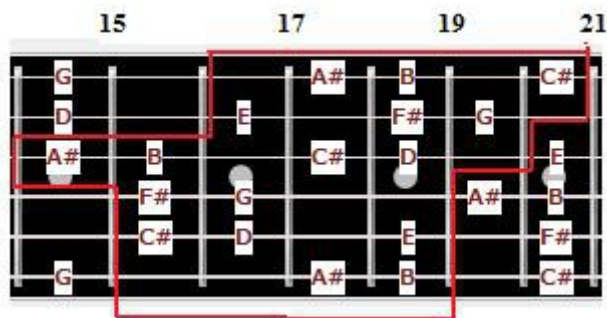
13小節目の1弦18フレット→19フレットを人差し指で移動して、スケールポジションを切り替え、そのまま薬指→小指(もしくは中→薬)で、1弦の21、22フレットを弾きます。
 (※使っているギターにフレットが足りない場合は、各自でフレーズを調整してください)

そしてまた、22フレットから戻る時に19フレット→18フレットを人差し指で移動します。

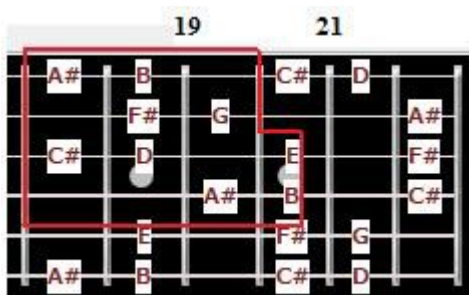
この、13小節目の終わり辺りから、14、15小節目は、6弦19フレットのB音をトニックに見た、Bハーモニックマイナーのポジションです。
 ですが、いつものこのポジションとはちょっと変えて、



14、15小節目はこの様に見ています。



で、最後の16小節目は、4弦21フレットのB音をトニックに見た、Bハーモニックマイナー(もしくはA#をトニックに見たA#オルタードb7th)のポジションを下がり、最後にそのポジションをまた上がって行って、1弦19フレットのB音(トニック)で終了です。



と、言う事で、ハーモニックマイナーの指板横断フレーズでした。

この譜例では、ハーモニックマイナーのモード・スケール7種の内、3種類をベースに全体を見ていきましたが、他のスケールで見た方がわかりやすい、と感じる部分があれば、解釈を変えてもらっても構いません。

ポジションの切り替えも、今回は左手のストレッチは(ほぼ)無しで、隣合ったものへの移動に限定しているので、実際は、やろうと思えば指板上でもっと色々な弾き方が出来ます。

元々、僕自身の基礎練習として作ったものなので、自分なりに応用編を作ってみたりしてもいいですね。

後は、最終的に、指板上のどこでも、ハーモニックマイナーとナチュラルマイナーを瞬時に切り替えられるようになるのが目的なので、各トニックの周辺のナチュラルマイナーのポジションと切り替える練習もしてみましょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼